

クラブマネジャー養成セミナー開催

日時 平成26年6月22日（日）. 7月13日（日）

場所 安積総合学習センター

参加者 23名

講義・ワーク「地域スポーツクラブとは」「地域スポーツクラブの現状」

講師 岡部禎和（浜通り広域スポーツセンター）



地域スポーツクラブを取り巻く環境の変化やスポーツ基本法による国の施策についての説明がありました。ワークでは自クラブの強みや弱みについて把握し、これからのクラブの経営上の課題についてグループで話し合いました。

講義・ワーク「クラブマネジャーの役割」

講師 松澤淳子氏(早稲田大学スポーツビジネス研究所)



クラブの運営をになうクラブマネジャーが果たす役割やクラブマネジャーに求められる資質について説明がありました。

講義・ワーク「地域スポーツクラブとは」「地域スポーツクラブの現状」

講師 向後隼平氏（NPO法人ひのきスポーツクラブ クラブマネジャー）



ひのきスポーツクラブの活動内容やクラブの課題、クラブマネジャーとしてクラブの運営にあたって留意することについて説明がありました。



今年度は23名が受講し、22名の方が修了されました。本県におけるセミナー修了者は、累計443名になりました。

平成26年度 第1回フォローアップセミナー開催

日時 平成26年7月27日（日）

場所 郡山ユラックス熱海

参加者 25名

【会議の概要】

スポーツクラブ間相互の情報交換やクラブ運営に関する研修を通してクラブ関係者のスキルアップを図り、今後のクラブの円滑な運営に資することを目的として開催されました。

○セミナーI「補助金に頼らない自立したクラブをめざして」

講師 西原康行氏（新潟医療福祉大学 教授）



クラブを長く続けていくためには経営理念を明確にし、他のクラブとのネットワークを大切にしていくことであるとの説明がありました。講義の中には実技も取り入れていただき楽しく参加することができました。

○セミナーII「NPO法人格の取得と法人格を生かしたクラブの経営について」

講師 谷塚哲氏（REGISTA有限責任事業組合 代表）



法人格の取得については目的に応じて選択が必要であるとの説明がありました。スポーツクラブにとっての法人化の必要性や税制の優遇などについて詳しく説明がありました。

○セミナーIII「地域資源を活用したクラブの運営」

講師 齋藤武司氏（NPO 法人かみのやまスポーツクラブ クラブマネジャー）



地域に眠っている資源の活用の仕方
や他団体との連携に関する実際の取
組みについて説明がありました。とて
もユニークな活動が多く、参考になり
ました。

平成26年度うつくしま総合型スポーツクラブユニオン

第3回常任理事会

開催場所 福島市ウイズもとまち

開催日時 平成26年7月18日（金） 13時30分～

出席者数 6名

- 1 開会
- 2 うつくしま総合型スポーツクラブユニオン会長あいさつ 中島道男氏
- 3 うつくしま広域スポーツセンタープロジェクトマネジャーあいさつ 鈴木慎治
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人の任命
- 6 報告事項
県ユニオン Re-Start プロジェクトについて
- 7 協議事項
(1) うつくしま総合型スポーツクラブユニオン自主事業について
(2) 休止クラブに係わる規約について
(3) その他
- 8 議長退任
- 9 情報交換
- 10 その他
- 11 諸連絡
- 12 閉会

〈会議の概要〉

うつくしま総合型スポーツクラブユニオンロードマップの作成に向けての Re-Start プロジェクトの第1回の会議が7月16日に開催されたことの報告がありました。うつくしま総合型ユニオン自主事業に向けて、会場図をもとに各ユニオンのブース開設場所や当日の人の流れについて確認をしました。常任理事会終了後には会場となる AOZ や駅前通りの会場視察を行いました。休止クラブに係わる規約について事務局から案が提示されました。理事会で出された意見をもとに規約について修正を加え、次回の常任理事会で提示することとなりました。



平成26年度うつくしま総合型スポーツクラブユニオン

第4回常任理事会

開催場所 福島市ウイズもとまち

開催日時 平成26年8月21日（木） 13時30分～

出席者数 6名

- 1 開会
- 2 うつくしま総合型スポーツユニオン会長あいさつ 中島道男氏
- 3 うつくしま広域スポーツセンタープロジェクトマネジャーあいさつ 鈴木慎治
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人の任命
- 6 報告事項
県ユニオン Re-Start プロジェクトについて
- 7 協議事項
(1) 県ユニオン自主事業（全国レク体験ひろば）について
(2) 休止クラブに係わる規約改正（案）について
(3) 県ユニオンロードマップについて
(4) その他
- 8 議長退任
- 9 情報交換
- 10 その他
- 11 諸連絡

〈会議の概要〉

県ユニオン Re-Start への最終参加者が13名になったことが報告され、第2回目のプロジェクト会議を8月29日に会津地区で予定していることの報告がなされました。県ユニオン自主事業に向けて、当日の運営マニュアルをもとに2日間のスタッフの動向やブースの開設に伴う準備や片付け、スタンプラリーなどについて確認をしました。



橋南軟式野球部からの支援金で作成したカーブナーが完成しました。

基点クラブ支援事業研修会

日 時 平成26年7月31日（木） 13時30分～15時30分
場 所 謹教コミュニティセンター
出席者数 13名
講 師 星野珙二氏（認定NPO法人ふくしまネットワークセンター理事長）

【研修の概要】

認定NPO法人ふくしまネットワークセンター理事長の星野珙二氏を講師に迎え、基点クラブ支援事業第1回研修会が開催されました。会は前半にNPO法人格取得とマネジメントについての講義、後半に設立趣旨書や事業計画書作成に係るワークを行いました。

講義では、NPO法人化の設立手順、NPOの意義（メリット、デメリット）と運営についての説明がありました。運営では、PDS（PDCA）サイクルを廻すこと、つまり、計画→実行→結果評価→計画修正を行うことですが、その中でも、結果評価を組織的に行うことが大事であると述べられました。また、ミッション（組織の目的と存在意義）・ビジョン（近い将来到達したい像）の達成のためには、長期戦略（ありたい姿、現状把握、理想と現実を埋めるための計画）の策定が大事であり、強み・弱み・機会・脅威の視点からミッション・ビジョンを分析することも必要であるとのことでした。

ワークでは、クラブの規約や事業計画をもとに、NPOの申請書類となる設立趣旨書や事業計画書の作成に取り組みました。どんなことを記入すればよいのか質問したり助言をいただいたりして意欲的に活動されました。

今回の研修は、基点クラブである会津美里クラブ衆が地区クラブのアンケートを集約し、広域スポーツセンターと協議しながら進め、当日の運営も行いました。地区のニーズに応じた研修会となるよう配慮し、第1回はNPO法人格取得を進めているクラブや検討しているクラブ関係者の方々が参加されました。通常の研修会は講義のみで終わってしまうことが多いですが、ワークもあり実務を伴う研修内容だったことが良かったと思います。



講師の星野先生です。講義は約1時間と短い時間でしたが、NPO法人格とマネジメントのポイントをわかりやすく説明いただきました。



参加されたクラブの方々は、講義、ワークとも真剣に取り組んでいました。特にワークでは、クラブ内で話し合ったり、講師や基点クラブの前田氏より助言をいただいたりして実務に対する理解を深めました。

双葉ユニオン交流事業ウォーキング in 広野

期 日 平成26年7月6日（日）

会 場 広野公民館

参加者 236名

昨年度の川内村でのウォーキングに引き続き、今年度は広野町を会場として双葉ユニオン交流事業が行われ、236名の方が参加しました。

天候にも恵まれ、参加された方々は3, 5, 7kmのウォーキングコースとノルディックウォーキングからコースを選択し歩きました。コース途中には海が一望できる高台があり、潮風を体全体に感じながら楽しく歩くことができました。ゴール地点の広野公民館では豚汁のサービスもあり、心も体も温かくなりました。



【開会式・開会セレモニー】



今年も楽天ゴールデンイーグルスから東北ゴールデンエンジェルスが参加し、ダンスパフォーマンスを披露し交流会に華を添えていただきました。

【ウォーキング】



絶好のウォーキング日和の中、海を見ながら気持ちのよい汗を流しました。

【劇団公演】



東京を拠点としている「水色革命」による演劇が行われました。

【物販コーナー】



物販コーナーでは北海道から「スポーツコミュニティのぼりべつクラブおにすぼ」、宮崎の「半九レインボークラブ」の方々が焼きそばやジンギスカン、地鶏の炭火焼きなどを、「ならはスポーツクラブ」の手芸教室の方が手作りのバックやコースター、アクセサリの販売を行いました。

【閉会セレモニー】



閉会セレモニーでは、北京オリンピック金メダリストの楽天ソフトボールスクールコーチの染谷美佳さんが参加者を打席に立たせてピッチングを披露し、その後は参加者全員でじゃんけん大会が行われました。



第2回会津地区総合型スポーツクラブユニオン開催

（体験ひろば打合せ会）

開催場所 喜多方市押切川体育館

開催日時 平成26年7月23日（水） 18時30分～

出席者数 14名

- 1 開 会
- 2 あいさつ 会津ユニオン会長 福西俊之氏
- 3 協 議 ○全国レクリエーション体験ひろばの運営について
○エルゴメーター研修
- 4 閉 会

<会議の概要>

14名のクラブ関係者が参加し、第2回会津地区総合型スポーツクラブユニオンが開催されました。会では、福西会長より、全国レクリエーション体験ひろば運営への協力について話がありました。協議では、前田理事長が議長を務め、体験ひろばの進捗状況や運営スタッフ等について話し合いました。当日の運営方法については、実際にエルゴメーターを体験して修正することとなりました。

【事前案】60分間様々な方に体験して頂く時間と体験後、記録に挑戦する時間を30分設定し、これを1セットとして繰り返すようにする。



講師の会津磴漕会の富田さんです。エルゴメーターの操作方法や設定の仕方など指導してくださいました。



エルゴメーターの記録測定に挑戦しています。1分間ですが、いい運動です。記録が表示されるので、盛り上がります。



これがエルゴメーターです。ボートの練習で使用します。會津磴漕会の方に漕いでもらおうと姿勢が大切だとわかります。



メーターの説明は英語で書かれていますが、操作ボタンを番号で覚えました。

【決定内容】エルゴメーターの操作の仕方を教えてもらい、体験してみると記録測定もしたいと思うようになることから、**5分体験→その後1分間記録測定** を1セットとして繰り返すことへ変更した。

會津磴漕会の方々の協力で操作方法を身につけました。当日参加された方々に楽しんでいただければと思います。

第1回県中・県南交流大会実行委員会

開催場所 須賀川市西袋公民館

開催日時 平成26年7月16日（木） 19時00分～

出席者数 8名

- 1 開 会
- 2 あいさつ 総合型スポーツクラブ県中地区ユニオン会長 佐藤靖弘氏
- 3 協 議
- 4 閉 会

<会議の概要>

県中ユニオン・県南ユニオンの代表者8名が参加して、第1回県中・県南交流大会実行委員会が開催されました。交流大会は、県中ユニオン、県南ユニオンの会員の交流促進を目的として毎年開催されています。今年度は、県中地区での開催が決定しています。

会では、県中地区の実行委員である須賀川大森スポーツクラブの大柿氏を中心に期日や交流種目、種目内容などが説明されました。また、クラブへの案内や要項、チラシ作成などの担当者を決定し、担当者が責任を持って進めることとなりました。そのほか、参加費、保険、緊急対応マニュアルなどについても話し合われました。会に参加された方々は、過去の開催にも関わっている方も多く積極的に意見を出し合い、分担された役割を進んで引き受けてくださいました。

第2回の実行委員会は、8月下旬に開閉会式会場となるムシテックワールドで開催され、当日の運営方法や表示の設置場所など現地調査も兼ねながら行います。9月には、チラシも完成し広域スポーツセンターのホームページにもアップする予定です。県中、県南のクラブ会員の方々には、たくさん参加していただければと思います。

【決定事項】

期日：11月8日（土）

種目：3種類から選択するそうです。詳細は後日作成されるチラシをご覧ください。

色々なアイデアが提案され、
楽しい雰囲気での会議が行われました。



クラブアドバイザーレポート vol. 1

うつくしま広域スポーツセンター クラブアドバイザー 板垣晶行

今回のクラブアドバイザーレポートは昨年7月に日体協が公表した「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」についてその骨子を紹介します。

I、クラブ育成の基本理念・基本方針について

当育成プランの基本理念は「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」で、具体的には、**地域住民の多様なニーズを包含し、多様な活動が可能となる地域に密着したスポーツクラブの普及・定着により、豊かなスポーツ文化を身近に享受できる環境を整え、「住民の自発的、主体的、自治的なスポーツの推進と地域づくりの機能」を有する総合型クラブを育成・支援する。**としこの取り組みにより「スポーツの推進と地域づくり」の相乗効果と好循環が期待されるとしています。

これを踏まえたクラブ育成の基本方針として、特に重要とされる①活動のあり方、②クラブ組織のあり方、③活動財源の確保、の3項目について示しています。

「活動のあり方」では、住民目線の非営利活動であること、スポーツの本源的な意義の理解と多様なプログラムの実践、幅広い地域住民を巻き込んだスポーツの楽しさや喜びを拡充させる公益性などで、「組織のあり方」では、住民の連携・協働により地域の絆を培い、地域社会の発展に寄与するとして、住民主体の開放的で地域から信頼される組織としています。「活動財源の確保」では、受益者負担による自主財源の確保を基本とし、地元企業等からの協賛や寄付や指定管理者制度の活用など、外部からの財源確保も含め多様な財源の確保を上げています。

II、クラブによる自立・自律に向けた取り組みについて

上記の基本理念や基本方針を踏まえ、現場の各クラブが自立・自律に向けた自らの目標の設定とその目標達成に向けた具体的な計画の策定が必要であるとしています。

この目標の設定とは各クラブの「ミッションやビジョン」の策定で、地域の実情や特性を考慮すると共に、その達成度を客観的に把握できる指標となる数値目標も必要です。

また、この目標達成に向けクラブの実情と将来展望を考慮した実現可能な内容や方法の策定も重要で、これが目標達成に至るまでの道程を明らかにする「ロードマップ」となり、さらに、定期的かつ継続的に目標の達成度や計画内容などについて検証し、常に改善・改革を行う「PDCAサイクル」を活用した業務遂行は有効です。

Ⅲ、現場クラブに求められる具体的な取り組みについて

次に、各総合型クラブが「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」という基本理念の実現に際し、クラブの自立・自律に向けた安定的に充実・発展していくための具体的な7つの項目を示しています。

ここでは紙面上この7項目の表題のみを記載します。

1) 住民が参画する運営体制の整備、2) 安定的な活動拠点の確保、3) 地域に根差した各種事業の展開、4) 地域との相互扶助を築く他団体との連携、5) 地域とクラブをつなぐコミュニケーション戦略、6) 安定的で持続可能な財源の確保、7) 総合型クラブの活動現場における暴力行為の根絶、以上の7項目を挙げているので、具体的な詳細については「クラブ育成プラン2013」をご参照ください。

また、全国のクラブアドバイザーが無作為に選択した各県の緊急対応クラブを対象に、日体協が策定した「自立・自律に向けたチェックリスト」を活用し、緊急対応クラブに自己評価していただいたアンケート調査では、クラブが抱える課題の上位3項目として、1) 住民が参画する運営体制の整備、6) 安定的で持続可能な財源の確保、3) 地域に根差した各種事業の展開の順で集計され、これは納得いく結果であり重要な課題と思われます。



IV、持続可能な自立・自律のしくみづくり

総合型クラブのミッションは地域づくりであることは、今回紹介した「育成プラン2013」でも明記されていますが、地域づくりに必要な要因は事業の継続です。事業の継続には持続可能なクラブ事業のしくみづくりと多様な財源の確保が重要です。なぜならば行政や toto などの金銭的助成は年度予算で有期であるからです。

このクラブ自立・自律に向けた成長戦略には「公益性と収益性」が重要で、公益性とはクラブの地域における貢献活動の実績評価により存在価値が高まり、地域の核となるNPO法人などの公的団体として指定管理業務の受託などに繋がれば、クラブ自立の有効策になる可能性があります。

また、収益性とはクラブが自由に活用できる自主財源の確保で、クラブの事業収入に占める自主財源率の高揚は多様な財源確保の基本であり、これらのクラブ自立・自律に向けた皆さんクラブの積極的なチャレンジを期待しています。